

# 平成19年度医薬品安全使用実践推進事業に係る計画書

平成19年9月  
社団法人日本病院薬剤師会

## 【目的】

- 予測・予防型の安全対策の実践推進の観点から、医療現場における安全性情報の一層の有効活用を推進し、既知の副作用の回避を図ることを目的とする。
- 先進的な取り組みをしている医療機関の事例を収集し示すことにより、全国の医療機関における医薬品安全使用の推進の一助とする。

## 【事業の進め方】

- 1 日本病院薬剤師会内に担当委員会を設置
- 2 全国5カ所程度の協力病院を選定
- 3 協力病院へ安全使用に関する調査票を送付
- 4 各病院の安全使用システムについて実地調査
- 5 調査票及び実地調査に基づき協力病院の事例を整理
- 6 事例集案の作成。
- 7 必須と思われる要素を抽出し、指針案を整理

## 1. 日本病院薬剤師会内に担当委員会の設置

○社団法人日本病院薬剤師会内の医薬情報委員会において事業の進め方等について検討

大嶋 繁	城西大学薬学部医薬品情報学講座准教授
小川 雅史	大阪大谷大学薬学部臨床薬学教育研修センター教授
大浜 修	医療法人医誠会都志見病院薬剤部長
笠原 英城	社会福祉法人恩賜財団済生会千葉県済生会習志野病院副薬剤部長
小池 香代	名古屋市立大学病院薬剤部主幹
後藤 伸之	名城大学薬学部医薬品情報学研究室教授
小林 道也	北海道医療大学薬学部実務薬学教育研究講座准教授
鈴木 義彦	(独国)宇都宮病院薬剤科長
濱 敏弘	癌研究会有明病院薬剤部長
林 昌洋	国家公務員共済組合連合会虎の門病院薬剤部長

## 2. 全国5カ所の協力病院を選定

- 設置主体、病床数、電子カルテ等病院システム等を参考に医薬品安全使用に関する先進的な院内情報活用を行っている協力病院を選定

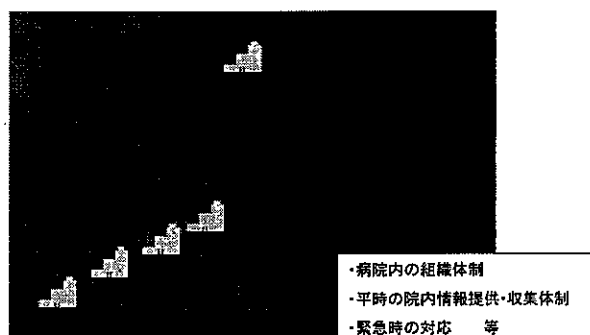


## 全国5カ所の協力病院を選定

- 北海道 (医) 溪仁会手稲溪仁会病院 524 床
- 東京都 虎の門病院 870 床
- 奈良県 (医) 新生会 高の原病院 199 床
- 徳島県 (医) 久仁会 鳴門山上病院 280 床
- 鹿児島県 鹿児島大学医学部・歯学部附属病院 725 床

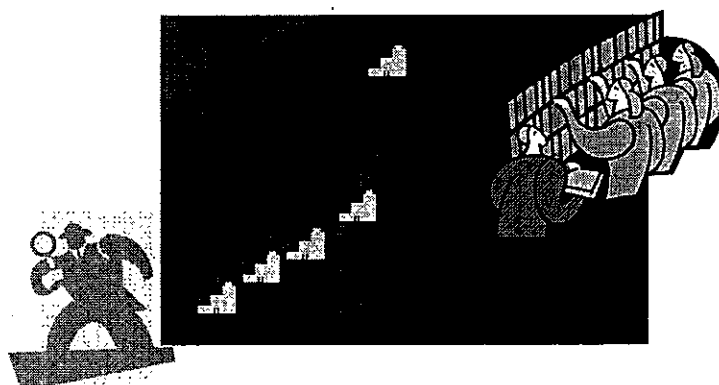
### 3. 協力病院への医薬品安全使用に関するアンケート調査実施

- 各病院における医薬品安全使用に関する先進的な院内情報活用の具体例についてアンケート調査を実施



### 4. 各病院の安全使用システムの実地調査

- 委員による実地調査を行い、医薬品安全使用に関する先進的な院内情報活用を可能とする院内医薬情報実務体制とシステムの実際について把握



## 5. 調査票及び実地調査に基づく事例の整理

- 新薬採用時における安全性情報の取り扱いと院内安全対策の具体的な事例調査
- 製薬企業等が提供する安全性情報の活用状況の具体的な事例調査
- 各施設における安全性情報の伝達手法と診療と処方に及ぼす効果の事例調査

## 6. 調査票及び実地調査に基づく事例の整理

- 新薬採用時の、ハイリスク薬等の指定状況の事例整理
- 新薬採用時の、使用診療科限定、医師限定等の措置事例の整理
- 市販後安全性情報の院内伝達手法と安全対策の事例分析
  - 1) 対応種別  
全病院的対応、診療科別対応、処方医別対応、患者来院状況別対応、等
  - 2) 対応担当別  
医薬品情報室対応型、病棟薬剤師対応型、等

## 7. 指針案の整理

- 新薬採用時に得られる安全性情報への院内対応指針
- 市販後の安全性情報入手時の院内対応指針
- 施設規模、電子カルテ等の状況に応じたし新案の作成

## 院内における医薬品情報の提供

### 現状

不特定多数の医師への情報提供

- ① お知らせ
- ② 医局掲示
- ③ 診察室掲示
- ④ 情報誌発行



### 今後のあり方

処方医限定・患者特定による  
情報提供

- ① 処方医特定型の情報提供
- ② 入院患者特定型の情報提供  
(病棟薬剤師)
- ③ 外来患者・来院日特定型の  
情報提供
- ④ オータ発生時のメッセージ表示
- ⑤ 情報の効果確認型の情報管理

## 【期待される効果】

指針・事例等を公表し、全国の医療機関において参考としてもらうことで、各種の安全性情報に対して医療機関における高度な医薬品安全対策の実践が推進される。

## 【作業スケジュール案】

